

1 川越まつりの歴史

平成17年2月、「川越氷川祭の山車行事」として国の重要無形民俗文化財に指定された川越まつり。慶安元年(1648)、当時の川越藩主である松平信綱が、氷川神社に獅子頭や神輿などの祭礼道具を寄進したことに始まります。それから3年後、神輿行列が初めて町内を渡御。その行列の後を、町人たちは仮装などをして随行しました。これが、現在の川越まつりのルーツです。

新河岸川舟運によって江戸との交流が深かった小江戸川越。祭りの形態は、江戸天下祭の影響を強く受け、やがて絢爛豪華な山車が曳き回されるようになります。江戸の祭りは神輿主体に変わりましたが、川越まつりは、かつての江戸天下祭の様式や風潮を今に伝えています。

参考

○川越まつり日程

・平成9年(1997年)から毎年10月第3土日

※ただし10月14日・15日が土曜日と日曜日の場合は、その両日。

(平成8年までは10月14日、15日)

○現在の川越まつりの山車

29台

※27町内に28台(幸町に2台)、川越市に1台(猩猩の山車)

2 川越まつりの問題点

(1) ゴミについて

多くの方が訪れることから、大量のゴミが発生し、ゴミをストックする場所の確保が困難。

(2) 出店者について

出店者が多く、場所の確保が困難。また、無許可での出店者がいる。

(3) 電線について

山車の曳航に際し、道路を横切る電線があり、人形を出して運行できない箇所がある。

(4) 山車の位置について

山車の位置が把握できていないため、観光客からの問い合わせ等に答えられないため、GPSで対応できないか検討中。

(5) 曳き手について

少子高齢化が進み、曳き手の数が減少している。

1003人
3770m x 311-2
30 x 12 x 2

3 中心市街地以外の市民の参加について

(1) 山車行事等への参加について

現在、山車行事への参加については山車を保有している町内で運営を行っており、町外の方の参加は難しい状況である。

川越市でも「猩猩の山車」を山車を保有していない町内の小学生などに曳いてもらっているが、1台しかないと多くの人数が曳くことは難しい状況である。

しかし、少子高齢化などから、山車を曳く人数が減ってきており、一般の方にも、曳いてほしい旨の話が出ている。

(2) 山車行事以外への参加について

山車以外の参加については、現在も行われているが、ボランティア団体によるゴミ清掃などが考えられる。そのほか、観光客への案内など川越まつりに来られた観光客への対応などが考えられる。

4 参考

川越まつりは川越まつり協賛会(事務局：観光課)により運営されている。

見沼田んぼで「ホタル鑑賞の夕べ」

№ 1

皆さんは知っていましたか？
 かつて見沼田んぼにはたくさんのホタルが
 飛びかっていたということ。
 あのホタルたちは
 どこへ行ってしまったのでしょうか。
 見沼田んぼで再びホタルを見たい、
 ホタルが戻ってきて欲しい。
 そんな願いを込めて、



第12回「ホタル鑑賞の夕べ」を開催します。

【開催日時】 2013年7月13日(土) 20:00~21:30

* 荒天の場合は、翌日14日(日)の同時刻に開催

* 自動応答電話番号 048-875-0130

【開催場所】 浦和くらしの博物館民家園

【主催】 ホタル鑑賞の夕べ実行委員会

【協賛】 旭ヶ丘・梅の郷・浅間下・東浦和5丁目・東浦和6丁目・東浦和7丁目の6自治会、青少年育成尾間木地区会、商工会議所商工振興委員会、東浦和地区連合商店会、浦和中ロータリークラブ、見沼の農業と自然を守る会、日本折紙教室浦和支部、NPO法人 見沼ホタル保存会



浦和方面からは第1駐車場、越谷方面からは第2駐車場をご利用ください。

【後援】 さいたま市緑区

【参加費】 無料

【事務局】

ホタル鑑賞の夕べ実行委員会

委員長 福本美敬

048-873-3886



2000人 (4430人)

7人程度
 SP 2
 30匹
 25匹 80匹
 ↓
 20匹~

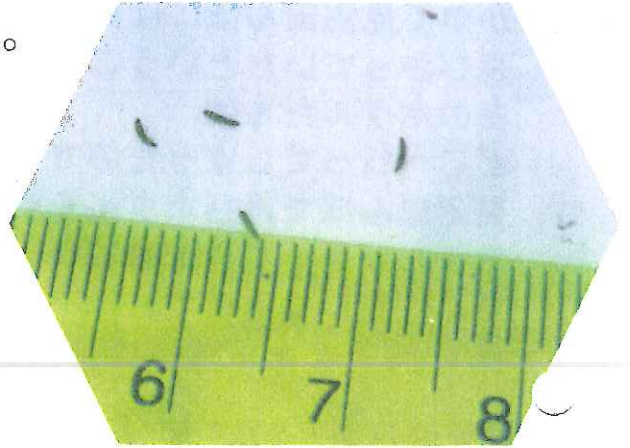
幼虫増殖事業（新幼虫の誕生）

来年のホタルになる幼虫が、7月中旬より誕生し始めました。6月下旬から産卵箱に成虫を入れ始めてから20日位から毎日20～30匹づつ8月末まで誕生しました。

一匹々数えながら、飼育箱の中に500匹毎分けて入れました。

飼育小屋では、2,336匹誕生しました。

体長は、8月5日で約3mm程度

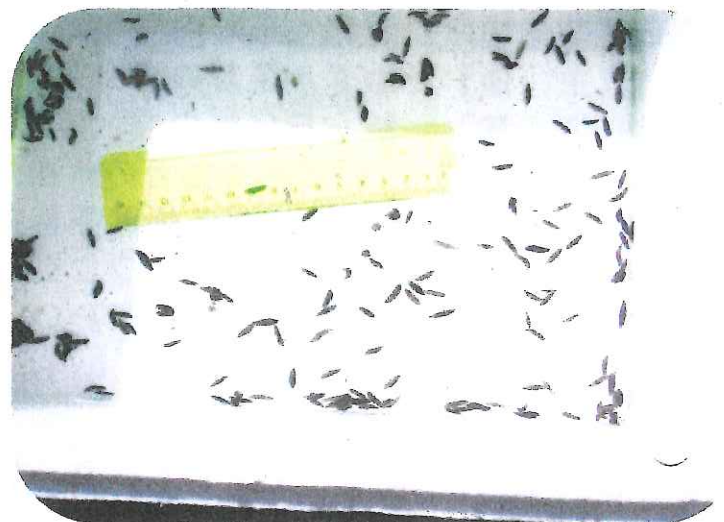


(8月5日撮影)

10月7日、数の確認をしたら1,261匹に激減しがっかり。まあ、これも例年のことです。

体長は、10月7日でmax10mm

福本さんより約1,400匹を加えて、大中小の大きさに区分けして、それぞれの飼育箱5箱に再配分しました。



(10月7日撮影)

来年用の幼虫は、2,650匹になりましたが、また、来年5月まで何匹生きているのか心配は尽きません。

飼育管理に情熱を注ぎましょう。



(再配分作業中)